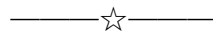


2010 年 2 月 11 日

MI 理論とハーバードの主要フレームワーク（理論的枠組み）の紹介
(2) 理解ための教育(TfU)

日本 MI 研究会 会長 上條雅雄

ハワード・ガードナー教授共著 *Multiple Intelligences Around the World* が昨年出版され、この機会に諸先輩、お世話になっている方々、友人、この JMIS サイトの読者と情報の交換を持った。その中で強く感じたことは、＜MI 理論およびこの理論と関連して活用できるハーバードのフレームワーク（理論的枠組み）に関する和訳書＞が極めて限られているという実情である。そこで、今までに自分が執筆したもので、オンライン上で公開されているものに関して、ここからリンク出来るようにした。これは、原書への導入を目的とするものであり、翻訳には個人の解釈や考察が含まれている。ここで取り上げる「理解ための教育(TfU)」は教育分野のみならず実社会においても応用できるフレームワークである。また「MI 理論」と組み合わせて考えると深く応用が出来る。



Introduction to Teaching for Understanding (TfU) with Personal views

「理解ための教育(TfU)」の概要と私的考察

訳・編集 上條雅雄

理解とは何でしょう。

"What is understanding."

デービッド・パーキンス David Perkins 著

(Jossey-Bass Publication)

理解とは何でしょう。生徒が何かを理解した時、何をやり遂げたのでしょうか。「理解」についての教授法でこれより基本的な質問はないでしょう。もし、教育の分野で、生徒に「理解」させることが最も重要だと考えるならば、我々が何を目指しているかを知る方が良いでしょう。

知識、技能、理解は教育で最も重要な要素です。ほとんどの教師はこの3点について献身的に努力します。生徒が、学校教育または他の学習経験から、豊かな知識と良く発達した技能を身に付け、彼らの学んだことの意味、意義とその活用方法について理解してほしいと思っています。そこで、教室での学習が、知識、技能、理解についてどのような概念の基に行われるべきか、問いかける必要があります。

知識と技能に関しては、大枠の答えがすぐに来ます。知識はいつでも出せるように用意されている情報です。我々は、問いに答えることが出来た時、生徒が知識を持ってい

ると確信できます。我々は、生徒が技能を見につけているかは、すぐに確認できます。生徒が正しい文法とスペルで書けるかどうか確かめれば、生徒の書き物をチェックすればすぐ確認できます。算数の技能をチェックするためには、クイズを出したり、一連の問題を出したりすればよいのです。

しかし、「理解」は別のものです。物理の問題を巧みに解く生徒が物理をそれほど理解していないかもしれないし、課題についての文章を上手に書く生徒が、書かれているものを全然理解していないかもしれないのです。知識と技能は、いつでも出せるように用意されている情報と機械的作業、と翻訳できますが、「理解」はこれらの基準からは外れます。

それでは理解とは何でしょう。ひとつの答えは我々の理論とプロジェクトの心臓部にあります：それは単純でかつ、豊かな意味を持っています。一言で言うと、理解とは、「知っていることを活用して、柔軟性を持って考え、行動する能力」です。

「理解のための教育」

学校教育の現状認識として（日米基本的には同じ問題か？）、多くの学校での活動や家庭での学習がどちらかというと、「知識または、機械的なスキルの詰め込み」が多い、言い換えるとルーチン作業（*routine performance*）であり、記憶のみで理解が伴っていないため、応用が効かないといわれています。

この状況を変革するために、「理解のための教育の手法」の実験、研究、開発が、ハーバード教育学大学院の教授やリサーチャー陣を中心とし、60余の学校、30余の大学の教育者が参加したプロジェクトチームにより、6年にわたって行われました。

ここでは「理解」（*Understanding*）を「問題について自分が理解していること、知っていることを、色々な *action*（行動）や *performance*（実践）で新しい方向に展開し、示すことが出来ること。」と定義しています。

この「理解のための教育」プロジェクトの成果について、ストーン ウィスキー女史が当プロジェクトの理論編となる著書のカバーで、簡潔に紹介されています。

"Teaching for Understanding" 「理解のための教育」

監修：ストーン・ウィスキー Stone Wiske
(Jossey-Bass Publication)

殆どの教育者は生徒が知識を得てそして、さらにその知識を事実や数字の丸暗記を超えた仕方で、---彼らの生涯を通して彼らに役に立つレベルの理解に発展するように---使う必要があることに同意すると思います。残念ながら、伝統的な教え方はしばしばこのゴールに達していません。「理解のための教育」は、理解を発展させる教え方への革新的なアプローチを紹介します。

⇒この続きは下記の財団法人ソニー教育財団のサイトをご参照下さい。

<http://www-sec.sony-ef.or.jp/institute/gist.html>